

「もしもシート」について

① 令和元年度「もしもシート」の活用状況

「もしもシート」は平成30年度の市民の理解を深める分科会で意見をいただき作成。令和元年度は、市民向けのセミナーや医療介護関係者向けの研修会等で、主に在宅医療・介護連携ステーション・センターのスタッフ、行政が中心となり、ACPについて啓発を行ってきた。

在宅医療・介護連携推進事業	実施回数	うちもしもシート利用	もしもシート配布数
地域医療連携強化事業	6回	5回	340枚
区民公開講座	13回	6回	670枚
市民出前講座「おきがる座談会」	55回	32回	773枚
事業所向け「在宅医療・介護の出前講座」	12回	5回	71枚
働く人のための医療・介護セミナー	7回	4回	71枚
ご当地連携研修会	52回	6回	331枚
地域看護連携強化事業	3回	3回	430枚
NW 情報交換会	1回	1回	191枚
計	149回	62回	2877枚

(R2.3.10 時点)

② 今後の方針

在宅医療・介護連携ステーションやセンター、行政が「もしもシート」を用いて、市民へACPについての啓発をしていくにあたり、伝える内容がぶれず、思いをひとつにして取り組めるようガイドラインのようなものがあるのも良いのではないかという意見があった。これを受け、市民の理解を深める分科会において委員の意見を参考に作成した。

令和2年度以降、本ガイドラインを活用していきたい。